

口永良部島の火山活動解説資料

福岡管区气象台
火山監視・情報センター
鹿児島地方气象台

＜噴火警戒レベルを 1（平常）から 2（火口周辺規制）に引き上げ＞

口永良部島では、11 月 30 日頃から火山性地震のやや多い状態が続き、12 月 11 日以降はさらに増加し、14 日には日回数が 39 回、本日（15 日）も 14 時現在で 28 回と多い状態となっています。

このため、口永良部島の火山活動が高まっていると判断し、本日（15 日）15 時 00 分に火口周辺警報（噴火警戒レベル 2、火口周辺規制）を発表し、噴火警戒レベルを 1（平常）から 2（火口周辺規制）に引き上げました。

口永良部島では火口周辺に影響を及ぼす噴火が発生する可能性がありますので、火口から概ね 1 km の範囲では、弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒が必要です。

○ 活動概況

・地震活動（図 1～2）

口永良部島では、11 月 30 日頃から振幅の小さな火山性地震のやや多い状態が続き、12 月 11 日以降はさらに増加し、14 日には日回数が 39 回、本日（15 日）も 14 時現在で 28 回と多い状態となっています。火山性地震の震源は、新岳火口直下のやや浅いところに分布しています。

・火山ガスの状況（図 3）

12 月 9 日に実施した現地調査では、二酸化硫黄の平均放出量は一日あたり 200 トンと、火山活動が活発であった 2008 年 12 月頃と同程度でやや多い状態でした。

・噴煙など表面現象の状況（図 4、図 5）

噴煙活動に特段の変化はなく白色の噴煙が概ね 100m で経過しています。

12 月 4～7 日にかけて実施した赤外線熱映像装置¹⁾による観測では、前回（2011 年 5 月）と比較して熱異常域に特段の変化はありませんでした。

・地殻変動の状況（図 6）

GPS 連続観測では、新岳を挟む七釜－SDW（産）の基線で 2010 年 9 月頃から伸びの傾向が続いていましたが、2011 年 9 月頃から鈍化しています。

1) 赤外線熱映像装置は物体が放射する赤外線を感知して温度分布を測定する測器です。熱源から離れた場所から測定することができる利点がありますが、測定距離や大気等の影響で実際の熱源の温度よりも低く測定される場合があります。

この火山活動解説資料は福岡管区气象台ホームページ (<http://www.jma-net.go.jp/fukuoka/>) や気象庁ホームページ (<http://www.seisvol.kishou.go.jp/tokyo/volcano.html>) でも閲覧することができます。

※この資料は気象庁のほか、国土地理院、京都大学及び独立行政法人産業技術総合研究所のデータも利用して作成しています。

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図 50mメッシュ（標高）』を使用しています（承認番号：平 20 業使、第 385 号）。

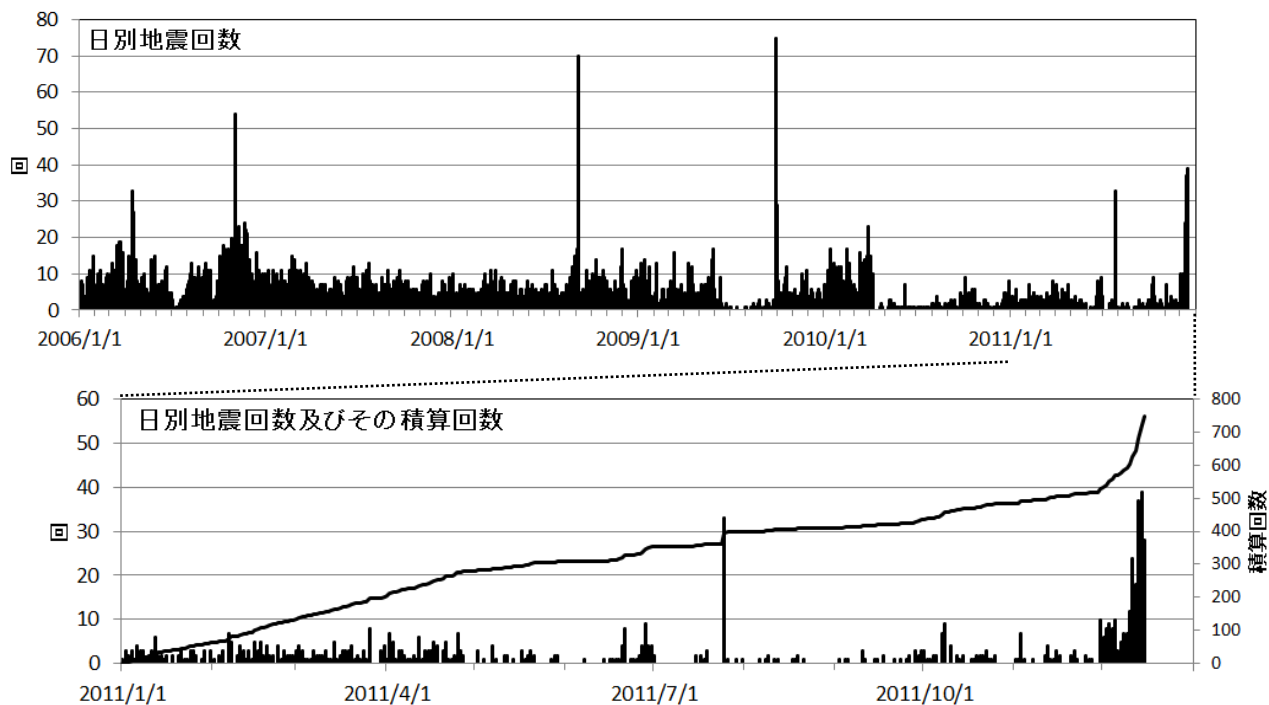


図 1 口永良部島 火山性地震の発生回数 (2006 年 1 月 1 日～2011 年 12 月 15 日 14 時)
11 月 30 日頃から振幅の小さな火山性地震のやや多い状態が続いていましたが、12 月 11 日以降はさらに増加し、14 日には日回数が 39 回、本日 (15 日) も 14 時現在で 28 回と多い状態となっています。

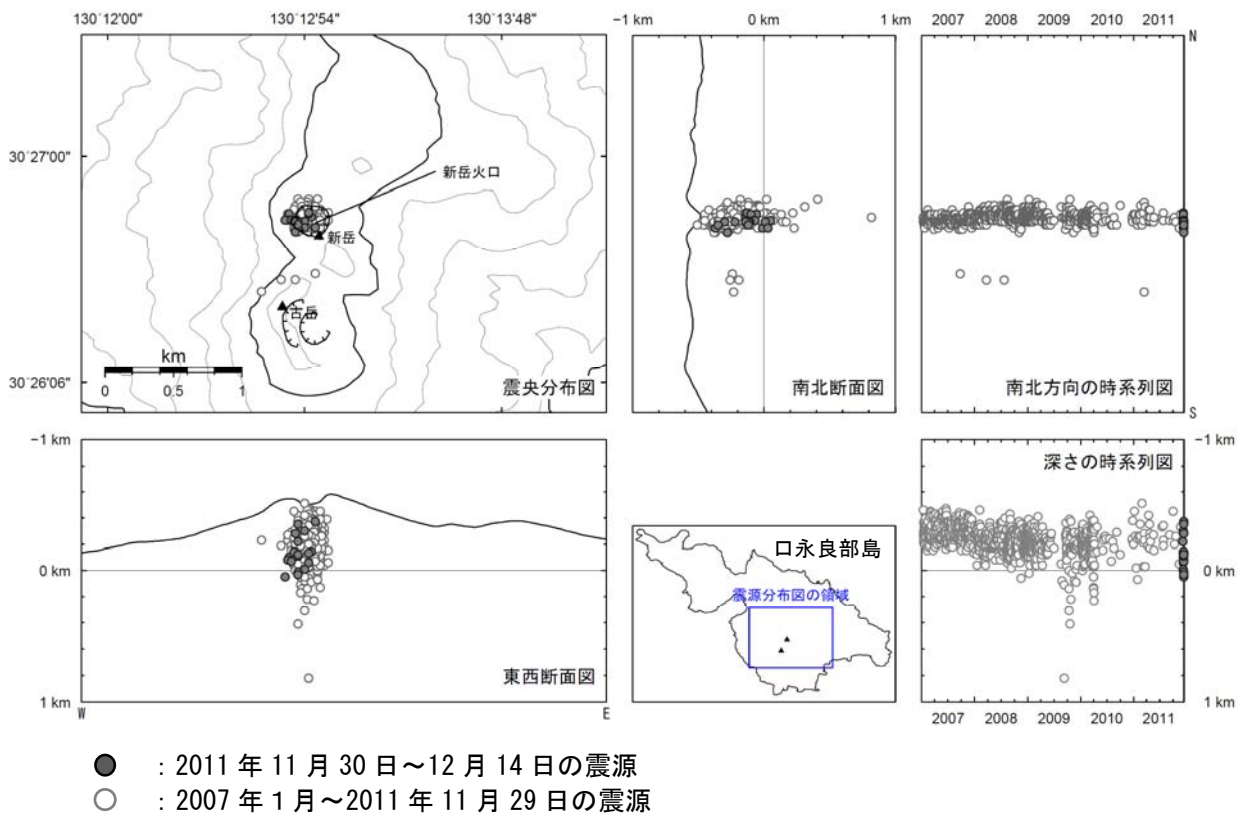


図 2※ 口永良部島 震源分布図 (2007 年 1 月～2011 年 12 月)
火山性地震の震源は、新岳火口直下のごく浅いところに分布しました。

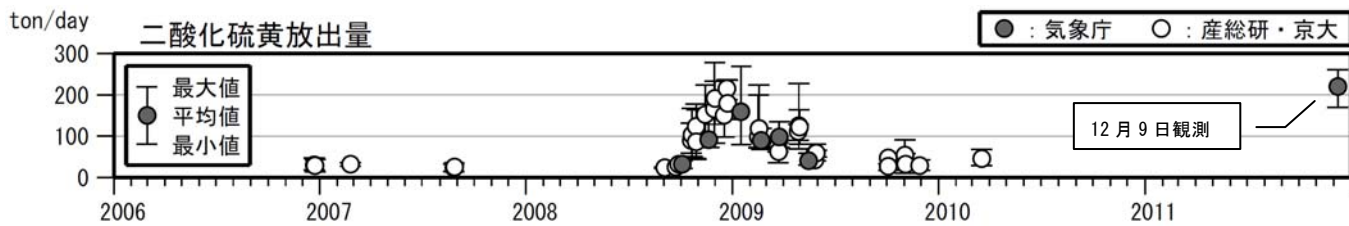


図3 口永良部島 二酸化硫黄放出量の経過図（2006年1月～2011年12月）

火山活動が活発であった2008年12月頃と同程度（一日あたり平均200トン）でやや多い状態でした。



12月6日 本村西遠望カメラ

12月6日 新岳火口北縁カメラ

図4 口永良部島 噴煙の状況（12月6日、本村西遠望カメラ、新岳火口北縁カメラによる）

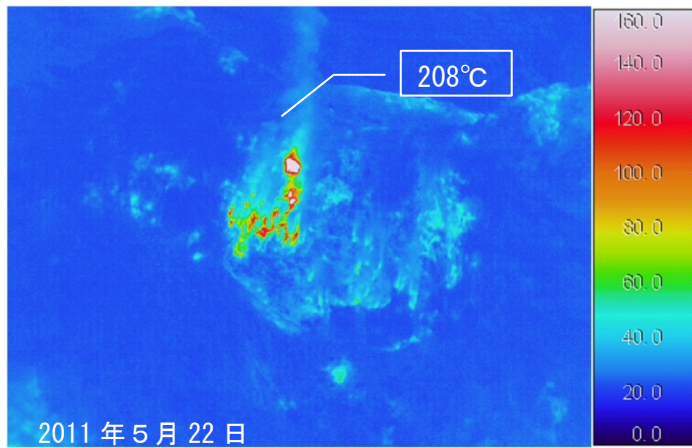
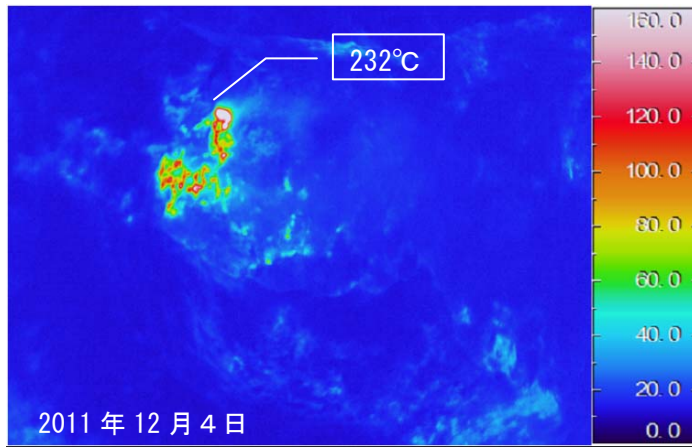


図5 口永良部島 新岳火口内の状況（新岳火口北縁カメラ付近より）

12月4～7日にかけて実施した現地調査では、前回（2011年5月）と比較して熱異常域に特段の変化はありませんでした。

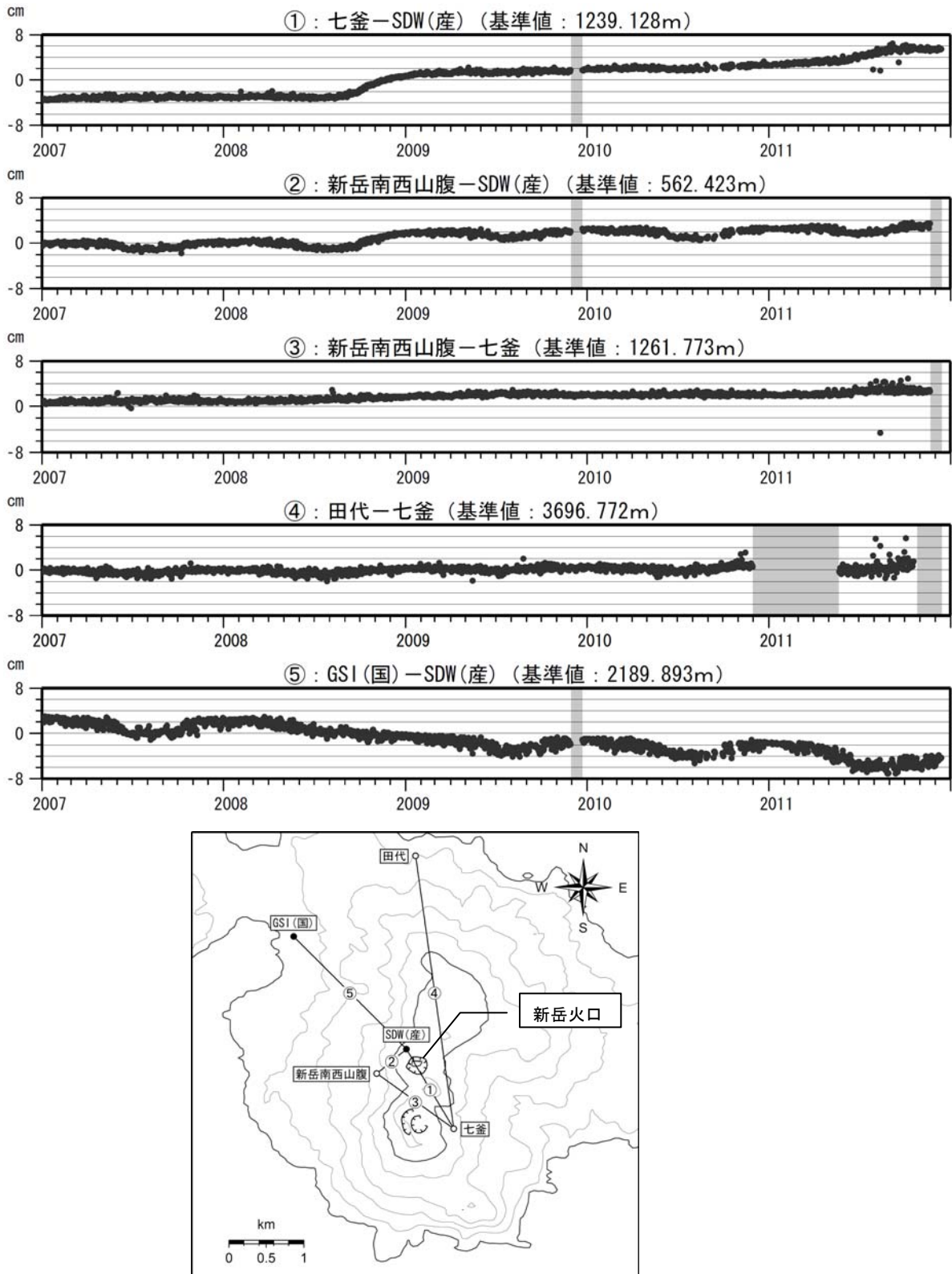


図6 口永良部島 GPS連続観測による基線長変化(2007年1月~2011年12月)

GPS連続観測では、新岳を挟む七釜-SDW(産)の基線①で2010年9月頃から伸びの傾向が続いていましたが、2011年9月頃から鈍化しています。

小さな白丸は気象庁、小さな黒丸は他機関の観測点位置を示しています。

(国) : 国土地理院、(産) : 産業技術総合研究所

* 灰色の部分は機器障害のため欠測を示しています。

田代観測点は移設のため10月26日に撤去しました。新しい観測点は現在調整中です。

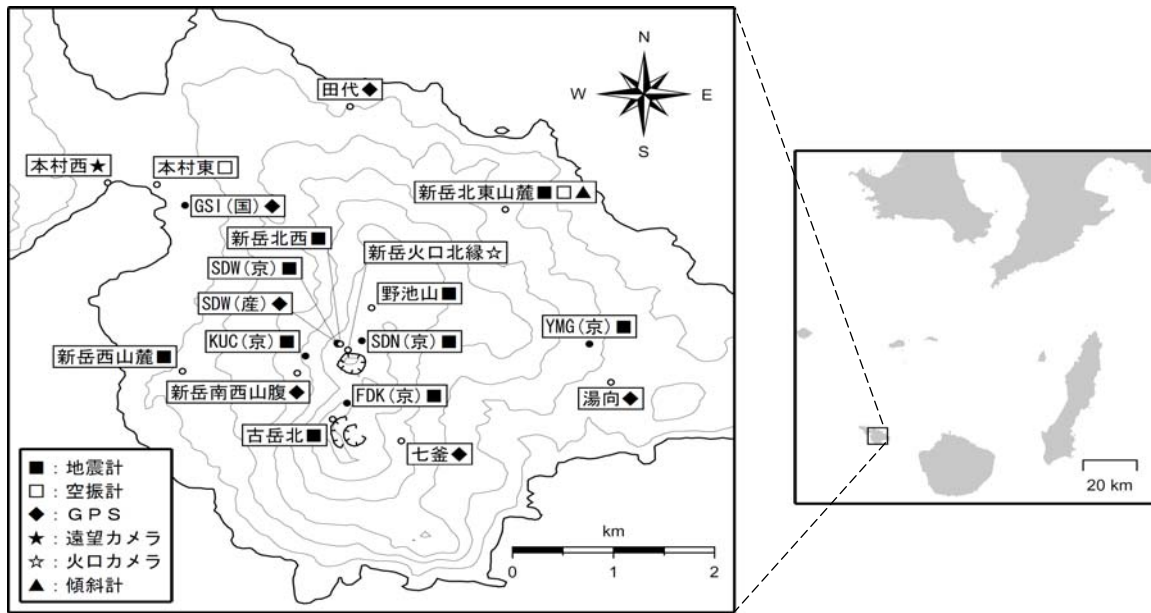


図7 口永良部島 観測点配置図

小さな白丸は気象庁、小さな黒丸は他機関の観測点位置を示しています。
(国)：国土地理院、(京)：京都大学、(産)：産業技術総合研究所